

環境活動レポート

2017年度

(対象期間：2017年4月～2018年3月)

 **茨城スバル自動車株式会社**

発行日：2018年5月31日

目次

【1】事業概要	1
【2】環境方針	3
【3】環境目標とその実績	4
【4】環境活動計画	5
【5】環境活動計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容	6
【6】環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	...	7
【7】代表者による全体評価と見直しの結果	8

【1】事業概要

代表者コメント

企業として地域の皆様に「安心・安全」を提供していくことは私たちの責任の一つであり、その一環として環境への積極的な取組みが求められています。エコアクション21の活動のベースである環境関連コンプライアンスをはじめ省エネ、省資源、リサイクル等について、より一層の成果を求めて全社への浸透を推進してまいります。

(1) 事業所名

茨城スバル自動車株式会社

(2) 代表者氏名

代表取締役社長 大槻 直樹

(3) 所在地

茨城県水戸市千波町 1 9 8 4 - 1

(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	常務取締役サービス部長	木村 弘
事務局	取締役総務部長	高橋 義博
事務局	保険部長	吉原 敦

連絡先 電話 029-241-1341 (代表) F A X 029-243-1783

(5) 事業の内容

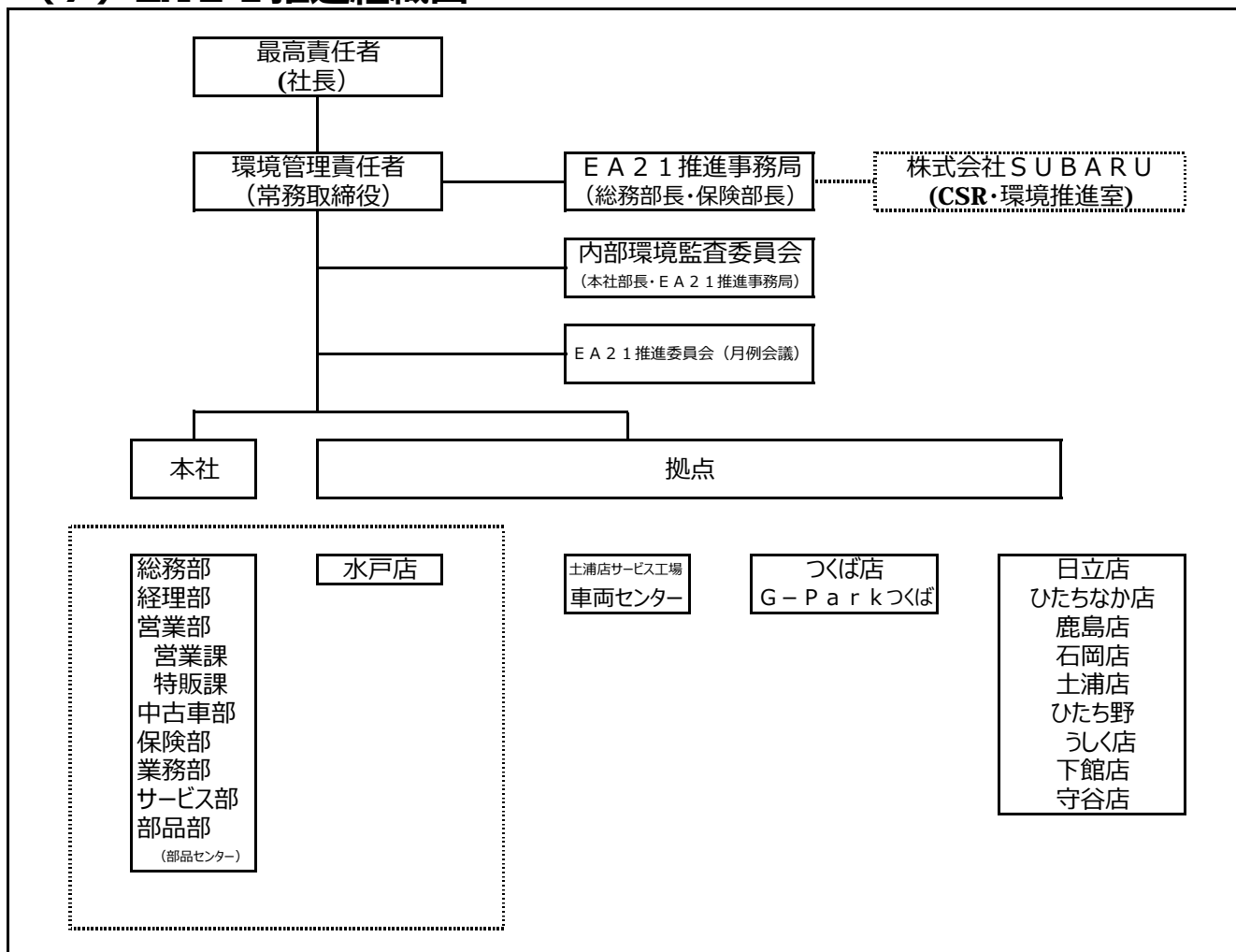
新車及び中古自動車の売買・整備・修理、自動車部品・用品の販売、損害保険の代理店業務

※以上の全活動を認証登録の対象範囲とする。

(6) 事業の規模 (2017年度)

・売上高	10,866 百万円
・新車販売台数	2,921 台
・中古車販売台数	2,170 台
・従業員数 (派遣・パート等含む)	244 人
・敷地面積	53,430 m ²

(7) EA 2 1 推進組織図



(8) 事業所一覧・組織区分

事業所名	郵便番号	住所	連絡先	電話番号	FAX番号	敷地面積 (m ²)	工場資格	社員数	組織区分
1 本社 (水戸店除く)	310-0851	水戸市千波町1984-1	総務部長	029-241-1341	029-243-1783	10,728.0	—	39	A
2 日立店	319-1411	日立市川尻町1-37-14	店長	0294-42-3611	0294-42-8707	1,912.0	指定	14	C
3 ひたちなか店	312-0005	ひたちなか市新光町27-3	店長	029-212-9600	029-212-9603	5,000.0	指定	18	C
4 水戸店	310-0851	水戸市千波町1984-1	店長	029-241-1505	029-243-7713	0.0	指定	37	C
5 鹿島店	314-0135	神栖市堀割1-1-28	店長	0299-90-1871	0299-93-9010	3,200.0	指定	16	C
6 石岡店	315-0071	かすみがうら市市川86-2	店長	0299-22-6107	0299-23-6707	1,314.6	認証	13	C
7 土浦店	300-0046	土浦市千束町4-5	店長	029-821-5247	029-822-6718	941.1	—	7	B
8 土浦店サービス工場 車両センター	300-0006	土浦市東中貫町2-1	工場長	029-831-2381	029-832-2713	11,401.2	指定	10	D
			センター長	029-832-7698	029-832-7699		—	9	D
9 つくば店	300-2622	つくば市要元南口堀字西原3-1	店長	029-877-0200	029-877-0266	1,303.0	指定	23	C
10 G-Park つくば	300-2622	つくば市要元南口堀字西原2-3	店長	029-877-0720	029-877-0886	5,689.9	—	5	B
11 ひたち野うしく店	300-1207	牛久市ひたち野東3-3-2	店長	029-828-5700	029-828-6055	7,140.8	指定	17	C
12 下館店	308-0063	筑西市神分45-1	店長	0296-22-5261	0296-22-4426	1,832.3	指定	17	C
13 守谷店	300-2435	つくばみらい市筒戸3346-1	店長	0297-52-0171	0297-52-0154	2,967.0	指定	19	C
						53,430		244	

※以上の全組織を認証登録の対象範囲とする。

○工場の資格で「指定」は指定整備工場、「認証」は認証工場を示す。

○組織区分の意味 A = オフィス業務

C = オフィス業務 + 自動車販売 (新車、中古車) + 整備業務

B = オフィス業務 + 自動車販売 (新車、中古車)

D = オフィス業務 + 整備業務

【2】環境方針

環 境 方 針

《基本理念》

茨城スバル自動車株式会社は、事業活動においても、環境保全活動においても基本に立ちかえり、当り前のことが当り前にできるような、シンプルで清々しい集団を目指して研鑽を積んでいきます。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行なう自動車および部品の販売、整備、修理、保険業務に関する事業活動が環境に及ぼす影響を考慮し、以下の環境保全活動に積極的に取り組みます。

1. 事業活動のあらゆる領域で、省資源、省エネルギー（CO2削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行ないます。
2. 環境汚染の未然防止と共に、環境経営システムとその運用による成果の継続的改善に努めます。
3. 適用される環境関連法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 特に以下の環境保全の重要項目に対して、環境目標を設定して取り組み、必要に応じて見直しを行ないます。
 - ①省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）
 - ②省資源（水使用量、紙使用量）
 - ③廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の削減）
 - ④化学物質の把握、管理（P R T R法関連、V O C対策）
 - ⑤グリーン購入の促進（エコマーク商品など環境配慮商品の優先的購入）
 - ⑥拠点周辺の美化を積極的に行ない、地域の環境改善に貢献する
5. この環境方針を全従業員に周知し、教育活動を推進します。

平成22年6月25日

茨城スバル自動車株式会社

代表取締役 **大槻 直樹**

【3】環境目標とその実績

(1) 環境負荷の状況 (全社)

		単位	2010年度実績※	2014年度実績	2015年度実績	2016年度実績	2017年度実績
二酸化炭素 排出抑制	電気	kwh	1,039,670.0	875,683.0	898,339.0	963,794.0	964,432.0
	ガソリン	ℓ	277,053.5	250,881.8	234,919.7	235,280.6	200,353.6
	灯油	ℓ	6,644.4	7,057.9	4,232.0	6,105.2	6,365.5
	軽油	ℓ	30,825.0	18,839.5	20,905.3	18,562.2	18,761.1
	重油	ℓ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	LPG	kg	1,751.6	391.2	436.6	450.4	444.4
都市ガス		nm3	64.0	107.0	32.0	0.0	0.0
二酸化炭素排出量		kg-CO2	1,187,929.6	745,456.3	733,248.2	745,215.4	656,801.7
廃棄物排出抑制	一般廃棄物	t	31.0	26.4	28.3	29.2	36.8
	産業廃棄物	t	144.0	108.1	93.4	77.2	74.2
総排水量削減	上水道	m3	9,713.0	9,327.0	8,535.0	8,039.0	8,081.0

※2010年度実績は取組初年度実績になります。

(2) 中期環境目標 (全社)

		単位	基準値 (2015年度)	2016年度	2017年度	2018年度
二酸化炭素 排出抑制	電気	kwh	898,339	(+0.9%) ※ 906,816	(△0.1%) 896,311	(△2%) 880,377
	ガソリン	ℓ	234,920	(△1.0%) 232,568	(△2.0%) 230,220	(△3.0%) 227,872
	軽油	ℓ	20,905	(△1.0%) 20,695	(△2.0%) 20,488	(△3.0%) 20,281
二酸化炭素排出量		kg-CO2	733,248	735,003	727,257	719,229
廃棄物排出抑制	一般廃棄物	t	28.3	(△1.0%) 28.1	(△2.0%) 27.8	(△3.0%) 27.5
	産業廃棄物	t	93.44	(△1.0%) 92.51	(△2.0%) 91.57	(△3.0%) 90.64
紙(コピー用紙)の使用量削減	一般廃棄物	t	8.63	(△1.0%) 8.54	(△2.0%) 8.46	(△3.0%) 8.37
総排水量削減	上水道	m3	8,535	(△1.0%) 8,450	(△2.0%) 8,366	(△3.0%) 8,280
*グリーン購入の促進		—	—	50アイテム	60アイテム	70アイテム
点検パック 付保率の向上		%	72.8	(+1.5%) 74.3	(+3.0%) 75.8	(+4.2%) 77.0
社会貢献活動		会社での取組を社員の家庭及びその地域に展開する				

※2016年度の消費電力量削減は+0.9%となっているが、2015年10月オープンの新店舗が大規模(約4倍)になったためです。

(3) 数値実績 (全社) 年度(2016年4月~2017年3月) 実績

		単位	削減目標	年度目標	年度実績	評価	
二酸化炭素 排出抑制	電気	kwh	△0.1%	896,311	964,432	未達成	7.6%
	ガソリン	ℓ	△2.0%	230,220	200,354	達成	-13.0%
	軽油	ℓ	△2.0%	20,488	18,761	達成	-8.4%
二酸化炭素排出量		kg-CO2		727,257	656,802	達成	-9.7%
廃棄物排出抑制	*一般廃棄物	t	△2.0%	27.8	27.4	達成	-1.4%
	産業廃棄物	t	△2.0%	91.57	74.20	達成	-19.0%
紙(コピー用紙)の使用量削減	一般廃棄物	t	△2.0%	8.46	9.40	未達成	11.1%
総排水量削減	上水道	m3	△2.0%	8,366	8,081	達成	-3.4%
グリーン購入の促進		アイテム		60	70	達成	16.7%
点検パック付保率の向上		%	+3.0%	75.8	73.8	未達成	-2.6%

注) 排出係数は東京電力(株)0.500、プレミアムグリーンパワー(株)0.026、日本テクノ(株)0.358を使用

【4】環境活動計画

(1) 二酸化炭素排出抑制

①電気使用量削減

- ・全社でのクールビズ実施（環境省推奨期間の5月1日～10月31日）
- ・屋外広告塔の全店舗20：00消灯
- ・P Cのスタンバイ設定の実行

②ガソリン使用量の削減

- ・「エコドライブ10」のすすめ
- ・効率的な業務計画による効率的な車両の使用

③軽油使用量の削減

- ・「エコドライブ10」のすすめ
- ・効率的な車両の使用

「エコドライブ10」の内容《参考》

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. ふんわりアクセル「eスタート」 | 6. 渋滞を避け余裕をもって出発 |
| 2. 車間距離にゆとりをもって加速・減速の少ない運転 | 7. タイヤの空気圧から始める点検・整備 |
| 3. 減速時は早めにアクセルを離す | 8. 不要な荷物はおろそう |
| 4. エアコンの使用は適切に | 9. 走行の妨げとなる駐車はやめよう |
| 5. ムダなアイドリングはやめよう | 10. 自分の燃費を把握しよう |

(2) 廃棄物排出抑制

①紙（コピー用紙）の使用削減

- ・電子文書の使用拡大による印刷数削減
- ・裏紙使用および両面印刷の推進

②産業廃棄物の削減

- ・マニフェストの完全運用
- ・分別再資源化の推進

(3) 総排水量抑制

①上下水道の使用量削減

- ・洗車時の効率的な水使用
- ・サービス工場床の拭取り習慣化

(4) グリーン購入の促進

- ・グリーン購入対象物品の積極的な購入

(5) 点検パック付保率向上

- ・点検パックの付保による点検整備車両増加

(6) 社会貢献活動

- ・各店舗周辺の道路清掃活動

【5】環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) 二酸化炭素排出抑制

①電気使用量削減

整備在庫量の増大が電気使用量増加の要因となり削減目標未達成となりました。
次年度も在庫量の増大が予想されるため、全事業所において残業時間圧縮に向けた取組を模索して実行していきます。

②ガソリン使用量の削減

エコドライブの浸透や効率的な使用等により大幅削減となり目標達成することができました。
「エコドライブ10のすすめ」の定着を推進します。

③軽油使用量の削減

エコドライブの浸透や効率的な使用等により目標を達成することができました。
「エコドライブ10のすすめ」の定着を推進します。

(2) 廃棄物排出抑制

①紙（コピー用紙）の使用削減

新車納車時期の長期化や整備在庫車両の増大により削減目標未達成でした。
社内資料を中心にペーパーレス化を推進して行きます。

②産業廃棄物の削減

マニフェストは適正に管理しました。分別の徹底等により大幅に削減し目標達成しました。
マニフェストの完全運用と分別の徹底に取組ます。

(3) 総排水量抑制

①上下水道の使用量削減

節水意識と行動が全社的に浸透してきており削減目標を達成しました。
更なる削減に向けたより良い仕組みを検討し実践していきます。

(4) グリーン購入の促進

意識して取り組んだ結果目標を大きく達成することができました。
対象商品を積極的に購入して行きます。

(5) 点検パック付保率向上

全てのお客様への一声がけを実施しましたが目標未達成でした。
全担当者が車両販売商談時、入庫時の全てのお客様へ点検パックの付保を提案していきます。

(6) 社会貢献活動

店舗前歩道清掃は毎日実施し、毎月1回は全スタッフで周辺道路まで清掃しています。
継続して実施します。

【6】環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

I 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

主な適用法規	要求事項	遵守評価
水質汚濁防止法	・特定施設の届出 (自動式車両洗浄施設)	○ 特定施設設置届出済 (10店舗)
浄化槽法	・設置の届出 ・法定点検、保守点検の実施	○ 設置届出済 各点検実施済
下水道法	・使用の届出 ・特定施設の届出	○ 特定施設設置届出済
廃棄物処理法	・廃棄物の適正処理 ・廃棄物処理業者との委託 契約書の締結 ・廃棄物の表示、保管管理 ・マニフェストの交付、管理 および報告	○ 委託契約書の締結 マニフェストの返送管理および 各報告の実施
消防法	・少量危険物貯蔵所の設置届	○ 設置届済10店舗 + 車両C + 本社 日立、ひたちなか、水戸、鹿島、石岡、 土浦(サ)、つくば、うしく、下館、守谷
化管法 (PRTR法)	・特定化学物質の排出量・ 移動量の報告	○ 報告義務はないが自主管理を 継続中
自動車リサイクル法 (フロン排出抑制法も関連)	・使用済自動車の適正処理	○ 業者登録 使用済自動車の適正処理実施
茨城県生活環境の保全 に関する条例	・各適用法規に準ずる	○
土浦市・かすみがうら市 との公害防止協定	・各適用法規及び県条例に 準ずる	○

II 違反、訴訟等の有無

2018年3月に環境関連法規の遵守状況を確認した結果違反はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありません。

同様に訴訟についても1件もありません。

【7】代表者による全体評価と見直しの結果

レビュー項目	報告者の説明の概要及び経営者の指示事項							
		単位	削減目標	年度目標	年度実績	評価		
①環境活動計画の実施状況及び環境目標の達成状況	二酸化炭素排出抑制	電 気	kwh	△0.1%	896,311	964,432	未達成	7.6%
		ガソリン	ℓ	△2.0%	230,220	200,354	達成	-13.0%
		軽 油	ℓ	△2.0%	20,488	18,761	達成	-8.4%
		二酸化炭素排出量	kg-CO2		727,257	656,802	達成	-9.7%
	廃棄物排出抑制	一般廃棄物	t	△2.0%	27.8	27.4	達成	-1.4%
		産業廃棄物	t	△2.0%	91.57	74.20	達成	-19.0%
	紙（コピー用紙）の使用量削減	一般廃棄物	t	△2.0%	8.46	9.40	未達成	11.1%
	総排水量削減	上水道	m3	△2.0%	8,366	8,081	達成	-3.4%
	グリーン購入の促進	アイテム			60	70	達成	16.7%
	点検パック付保率の向上	%	+3.0%		75.8	73.8	未達成	-2.6%
②苦情を含む社外の利害関係者からの受付結果	環境に関する行政及び各店舗周辺、その他関係者等からの苦情はありません。							
③環境法規制、その他の要求事項の遵守状況	現状での問題はありません。							
④当社に関する環境法規制、条例等の変化・変更の状況	大きな変化・変更はありません。							
⑤是正処置、予防処置の結果又は取組状況	各店舗の環境目標に対する実績において、電気、ガソリン、軽油、水について目標未達成の店舗が散見されます。事業量の増加に伴う増加もありますが、取組の見直しや再徹底を実施しました。							
⑥前回のマネジメントレビューでの指示事項への対応状況	特別な指示事項はありませんでしたが、環境関連コンプライアンスを最重要課題として活動を推進していきます。							
⑦環境方針の見直しの必要性	見直しは必要ありません。							
⑧その他	内部環境監査を実施した結果、不適合事項はありませんでした。							
見直しの結果	○	現在のシステムが有効に機能していることを確認した。					該当する項目に○を記入する。	
		現在のシステムが一部有効に機能していない。						
	あり	なし	環境方針の変更の必要性					
	あり	なし	環境目標の変更の必要性					
	あり	なし	推進体制の変更の必要性					
	<社長の総括的指示事項>							
	エコアクション21の基本方針である環境関連のコンプライアンスについては、内容の理解と行動が成果となって表れていますので継続して取組んでください。一方、省資源、省エネルギーの活動は、一部の項目で目標未達成となっています。外的要因もあり非常に難しい環境ではありますが、ピンチをチャンスと捉え目標達成に向けて全社で取組んでください。							